

ゆりぐみだより

2021年 11月 第4号

5月に植えた稲の稲刈りも終わり、最近では砂場にさつまいもを埋めて芋ほりごっこをしたり、焼き芋屋さんごっこをしたり、時にはさつまいもを立てたり並べたりしながら素敵なオブジェを作ったりと様々な遊び方で楽しんでいます。他にも縄跳び、ドッジボール、サッカーなど毎日元気一杯走り回って遊んでいる子ども達です。

これからも遊びを通して色々な経験を重ね、思考力、想像力などを育てていけるような保育を行っていききたいと思います。



優しい心

今年の夏は子ども達もオリンピックに興味をもち、会話の中にスポーツの話題や国旗の話が出て来る事が多くありました。ちゅうりっぷぐみの頃から国旗カードに触れ、オリンピックを見ながら国旗の話をする姿を想像していた事が3年越しに実現して感慨深いものでした。そんな中、パラリンピックの話も出ました。「手がない人がいた」「足がない人がいた」など話も聞こえてきました。そこで「みんなはどう思う」と聞いてみました。すると「何も」とすぐに答えが返ってきました。「手がないのに〇〇できてすごい」「みんな同じだよ」と言っていました。

友達との関わりの中で、自分と違う所があることを認め、良い所を見つけて褒めてあげる事も出来る子ども達は素晴らしいと思いました。

これからも、友達との関わりや、様々な事を経験していく中で、優しい心を大切にしていきたいですね。

運動会

保育園生活最後の運動会。毎日とても楽しそうに練習する子ども達の姿が印象的でした。パラバルーンは昨年度から少しずつ触れていた事もあり、基本がしっかり出来ていた子ども達。何曲かの候補の中から話し合いをして紅蓮華を選び練習を行って行きました。片膝を付き、しっかりバルーンを持って動いていく子ども達は、きっと膝が痛くなっていたと思いますが、決して「痛い」と言う事なく頑張っていました。砂が付いた膝が子ども達の頑張りの勲章のようでした。棒体操では幾つかの隊形移動もしっかり覚え、大きな声でカウントする姿はとてもかっこよかったです。親子競技では、お父さん、お母さんと一緒にどんなことをやってみたいかを子ども達と話し合いました。一番多かったのは「一緒に走りたい」で、他に「借り物競争」という話もありました。しかし借り物競争は難しいと思い、買い物競争に決めました。おんぶをしてもらう事を「えー」と言って恥ずかしがっていましたが、運動会当日…お父さん、お母さんと一緒に手をつないで嬉しそうな子ども達。「おんぶなんていつぶりだろう」という声も聞こえてきました。買い物をしておんぶで帰ってくる時の子ども達はとても嬉しそうに最高の笑顔を見せていました。お子さんの久しぶりのおんぶに、ずっしりと成長という嬉しい重さを感じる事も出来たのではないのでしょうか。

「もうすぐ小学生」と子ども達の成長と共におんぶや抱っこする事は少なくなってくると思いますが、時にはぎゅっと抱きしめてあげるのもいいですね。子どもは喜び、大人は癒され、最高のスキンシップです。

行事だけでなく、様々な場面で子ども達と話し合っ決めていく事を大切にしています。今後も子ども達が主体となって自分で考え、話し合い、遊びに取り入れて楽しんでいけるようにしていきたいと思っています。

